

### 屏風山 1

七里長浜沿いに、南北約30km・東西3～5kmにわたって延びる砂丘。平均標高約40m、最高点は北部の往古の木嶺(標高78.6m)。日本海から吹き込む潮風・飛砂防止を目的として、天和2年(1682)クロマツほかの植林が開始され、溜池の築造とともに、木造新田の開拓に貢献しました。屏風山の名称は、新田開発を推進した4代藩主津軽信政による命名と伝えられます。天明・天保飢饉時には盗伐で荒廃しましたが、安政年間以降復旧され、現在に至っています。



### 屏風山防風林 2

屏風山に植林された樹齢約150年のクロマツ群。当初、新田開発の一環として館岡村(つがる市木造)野呂太左衛門一族によって植栽されました。相次ぐ大飢饉により大部分が伐採されましたが、安政2年(1855)から明治7年(1874)にかけて、野呂武左衛門らを中心に約180万本が新たに植林され、現在に至っています。



### ペンセ湿原 3

ペンセ湿原は、標高約20m、面積約20haの広さの津軽国定公園を代表する湿原の一つです。湿原は6月中旬頃にはニッコウキスゲの群落で黄色に彩られ、7月上旬頃になると、ノハナショウブの群落で野は黄色から紫へと彩りを変えます。他にもさまざまな植物が咲き競うこの花園は日本自然百選に指定されています。苔が幾層も重なってできる低層及び中間層からなるペンセ湿原は、その見事な景観から、昭和58年(1983)、日本自然100選に指定されています。



### 最終氷期埋没林 4

約2万8千年前のエゾマツやアカエゾマツの針葉樹を1キロに渡って眺めることが出来ます。幅約30センチの泥炭層に1～2メートルの間隔で数千本が並ぶその風景は、埋



没林の規模としては世界最大級といわれています。最終氷期(約8万から2万年前)後期の極寒期に洪水などの急激な環境の変化により針葉樹が水没、それがそのまま真空パックのような状態で埋没した、という貴重な「樹木の化石」です。

### 田小屋野貝塚 [国史跡] 5

屏風山地東麓に位置する縄文前期の貝塚・集落。昭和19年(1944)亀ヶ岡遺跡とともに国史跡に指定されました。青森県立郷土館の調査により、縄文前期の竪穴住居跡が発見されました。住居跡内からは、ヤマトシジミをはじめとする魚貝類や海獣骨、鳥類などのほか、クジラなど大型哺乳類の骨で作った骨角器などが発見されています。ペンケイガイの貝輪も多数出土し、貝輪の製作が行われていたことが明らかになりました。近年つがる市教育委員会の調査によって縄文前～中期の竪穴住居跡や土坑群などが確認されています。



### 亀ヶ岡遺跡 6

屏風山地東麓に位置する縄文晩期の遺跡。亀ヶ岡式土器の標式遺跡であるとともに、遮光器土偶の出土で著名。昭和19年(1944)「亀ヶ岡石器時代遺跡」として国史跡に指定されました。弘前藩の事跡を記した『永禄日記』や紀行家菅江真澄の『外浜奇勝』に記録されるなど、精緻な土器を出土する遺跡として古くから知られていました。青森県立郷土館などによる発掘調査により、大量の土器や炭化米・ガラス玉などが出土しましたが、近年つがる市教育委員会の調査により、縄文晩期の竪穴住居跡がはじめて発見されました。



### 亀ヶ岡城跡 7

大溜池に突き出た通称「中の崎」に位置する近世初期の平城跡。津軽平野開拓の拠点として、元和8年(1622)2代藩主津軽信枚の築城を命じました。寛永元年(1624)森内左兵衛・大湯彦右衛門を総奉行として工事がはじまりましたが、幕府の一国一城令により、完成途上で廃城となりました。土塁・郭が今に残されています。なお、築城工事の際、大量の焼物(現在の亀ヶ岡式土器)が出土したことが「永禄日記」に記録されています。

### 木造亀ヶ岡考古資料室(縄文館) 8

昭和54年(1979)開館。亀ヶ岡遺跡や田小屋野貝塚から出土した縄文土器・石器、土偶・骨角器・藍胎漆器などを展示しています。開館時間 9:00～16:00/休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始/観覧料 大人200円、高・大学生100円、小・中学生50円/TEL0173-45-3450



### 大溜池 9

屏風山東麓に位置する溜池。面積30.3ha・有効貯水量152万6,400?・灌漑面積250.6ha。亀ヶ岡城の堀を基に築造されたと伝えられます。元和8年(1622)2代藩主津軽信枚が築城を命じた亀ヶ岡城は、田光沼沿いに大堤防を築いて堀とする計画でした。工事は一国一城令により中断しましたが、堀はその後の新田開発の進展により溜池として利用され、文化年間(1804～18)堤を増築し大溜池と称されました。

### 懸河遺跡 10 松枝遺跡 11 久米川遺跡 12

つがる市稲垣地区、旧岩木川河口付近に立地する古代低地遺跡群。発掘調査ほかにより、平安時代の竪穴遺構や土坑・溝跡が発出されました。土師器・須恵器ほか、北海道起源の擦文土器・漁網の土製錘、炭化米などが出土しています。従来、岩木川低地帯における積極的な土地利用は大規模な治水工事を伴う近世の新田開発以降と考えられていました。本遺跡群の調査結果は、その歴史が古代以前にさかのぼるとともに、立地環境を生かした稲作農耕・内水面漁撈等の生産活動、ならびに北海道との交流活動が盛んに行われていたことを証明しました。



### 旧尾野家住宅 13

明治25年(1892)完成の民家。茅葺木造平屋建てで、外観・内部ともに当時の姿をとめています。「稲穂こいの里」に移築されました。



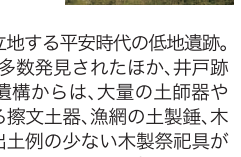
### 一本タモの木 14

岩木川堤防付近に佇立するヤチタモ。推定樹齢1000年・樹高14.5m・幹周760cm。平安時代に開拓が始まった稲垣地区の象徴であるとともに、古くから授乳の神として信仰を集めました。つがる市天然記念物に指定されています。



### 石上神社遺跡 15

岩木川左岸の自然堤防上に立地する平安時代の低地遺跡。発掘調査により、土坑・溝跡が多数発見されたほか、井戸跡も発見されました。それらの遺構からは、大量の土師器や須恵器、北海道に起源を有する擦文土器、漁網の土製錘、木製の生活雑貨ほか、県内では出土例の少ない木製祭祀具が出土しました。岩木川水系の低地という立地環境を活かし、稲作や内水面漁撈を行いながら、北海道と交易を行っていた集落と考えられます。



### 月夜見神社 16

祭神月夜見命。明治3年(1870)神仏分離により飛竜宮(観音堂)から分立しました。

### ■蓮川観音堂

津軽三十三観音第12番札所。本尊聖観音。天和2年(1682)あるいは正徳3年(1713)創立と伝えられ、安政2年(1855)飛竜大権現を祀る飛竜宮に改称しました。明治3年(1870)神仏分離により月夜見神社を分離して廃堂となりましたが、明治42年(1909)月夜見神社境内に再建されました。

### 藻川渡 17

岩木川下流部、現在の三好橋付近、藻川村(五所川原)と対岸の野野里村(つがる市木造)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、幅90間(164m)・馬船1艘となっています。昭和29年(1954)三好橋架橋に伴って廃止されました。